

アルゴリズムとデータ構造

第20週目

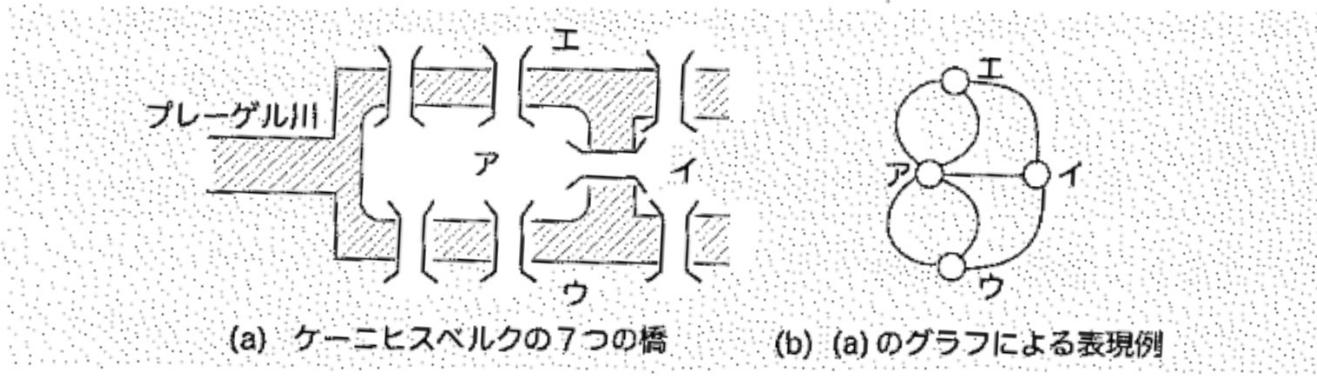
担当 情報システム部門 徳光政弘
2025年11月11日

今日の内容

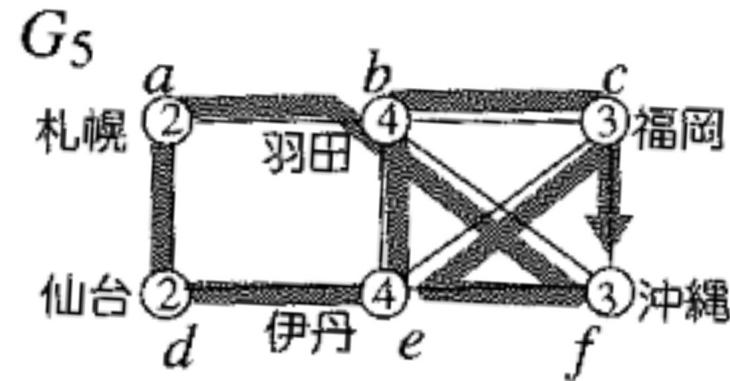
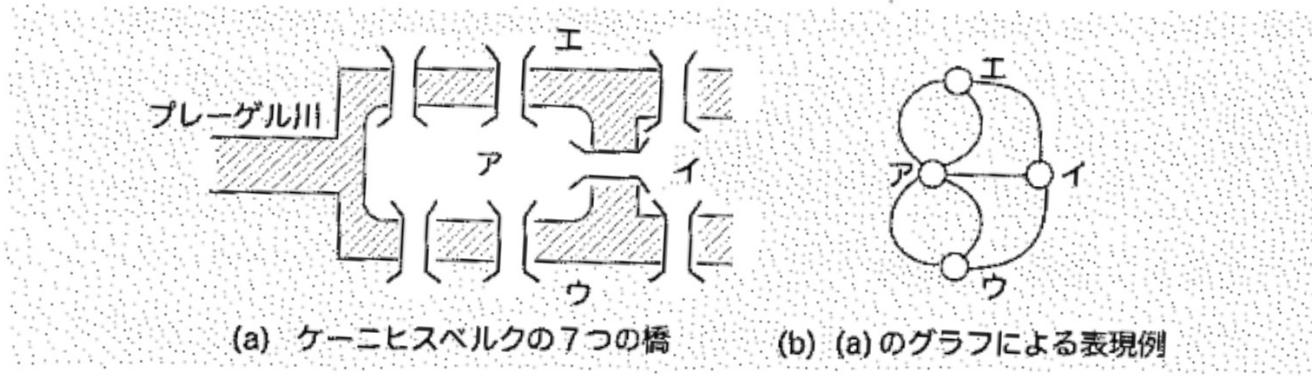
- グラフの性質を使った諸問題への展開
- オイラー・グラフ(復習)
- ハミルトン・グラフ(復習)
- 連結行列と可達(復習)

オイラーーグラフ

- 各辺をちょうど1回だけ通る回路
- 回路 同じ辺が含まれていない歩道で閉じた小道
- 小道 同じ辺が含まれていない歩道



オイラーーグラフ



オイラーーグラフ

オイラー小道とオイラー回路の必要十分条件

無向グラフ G にオイラー小道が存在するための必要十分条件を次に示す.

G が連結で、次数が奇数である頂点が 0 または 2 個である.

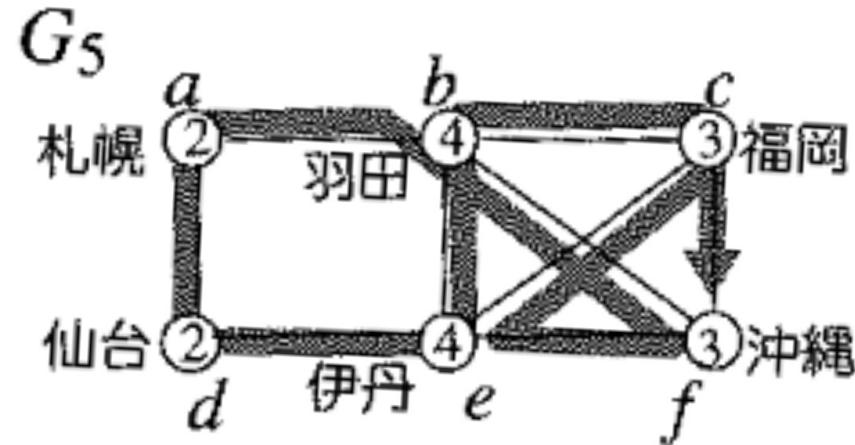
そして、無向グラフ G がオイラーーグラフである（オイラー回路が存在する）ための必要十分条件は次のとおり.

G が連結で、すべての頂点の次数が偶数である.

オイラーーグラフである場合、そのグラフを一筆書きすることができる.

ハミルトン閉路

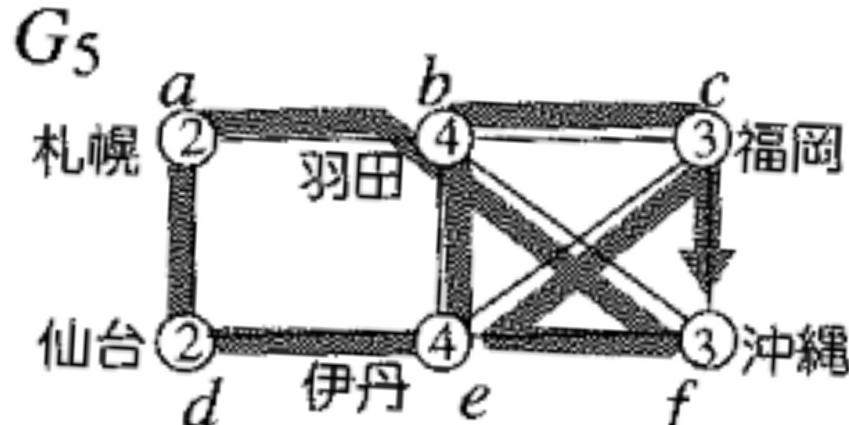
- 各頂点を1回だけ通る道(または閉路)
- 例すべての点を訪問する配達



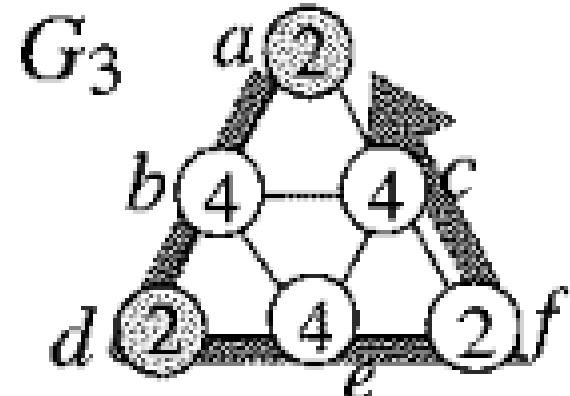
ハミルトン閉路を持つグラフの例

ハミルトン閉路

- 各頂点を1回だけ通る道(または閉路)



ハミルトン閉路を持つグラフの例



ハミルトン閉路を持つグラフの例
(十分条件を満たさない)

ハミルトン閉路の存在

ハミルトン道の十分条件

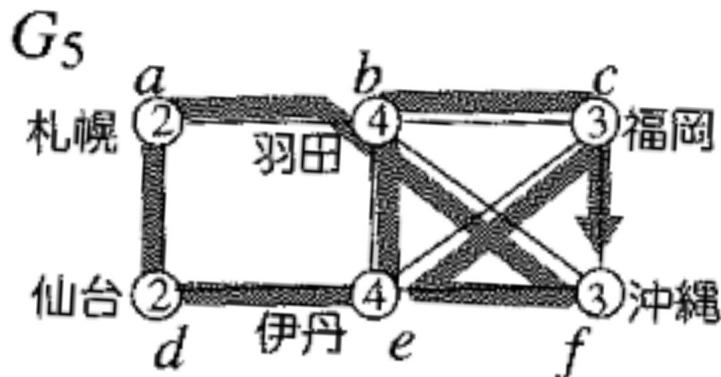
グラフ G にハミルトン道が存在するための十分条件は次のとおり.

G の位数（頂点の総数）が n であるとき、 G の隣接していない任意の 2 頂点の次数の和が n 以上であるならば、 G にハミルトン道が存在する.

教科書の誤植を修正

連結行列と可達

- 任意の2点間での道の存在の判定
- 連結行列を求めることで判定できる



$$A_{G_5} = \begin{bmatrix} \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} & \text{福} & \text{沖} \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

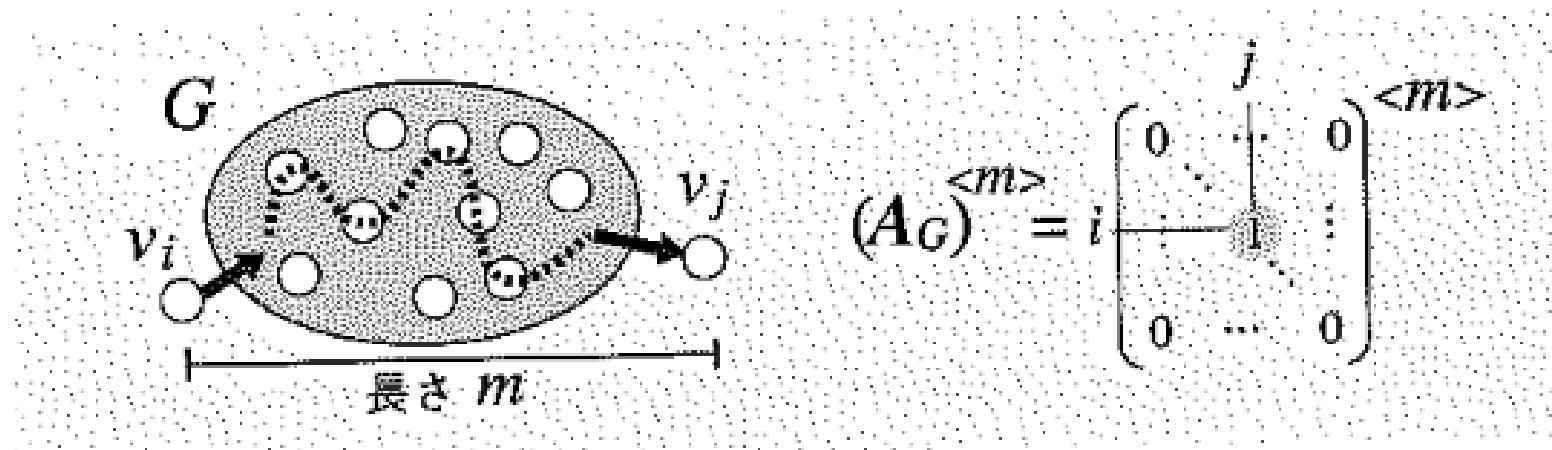
札
仙
羽
伊
福
沖

札
仙
羽
伊
福
沖

連結行列と可達

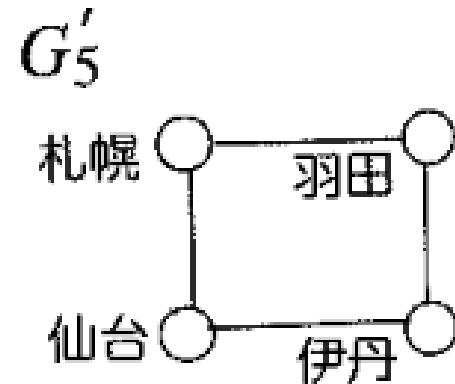
命題 7.5 隣接行列と連結性

グラフ $G = (V, E)$ から生成された隣接行列 A_G から積 $A_G^{}$ ($1 \leq m \leq n-1, n = |V|$) の要素 a_{ij} が 1 であることと、頂点 $v_i \in V$ から頂点 $v_j \in V$ へちょうど長さ m の歩道が存在することは、同値である。



連結行列と可達

$$A_5 = \begin{bmatrix} & \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} \\ \text{札} & 0 & 1 & 1 & 0 \\ \text{仙} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{羽} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{伊} & 0 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$



$$(A_5)^{(2)} = \begin{bmatrix} & \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} \\ \text{札} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{仙} & 0 & 1 & 1 & 0 \\ \text{羽} & 0 & 1 & 1 & 0 \\ \text{伊} & 1 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix},$$

$$(A_5)^{(3)} = \begin{bmatrix} & \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} \\ \text{札} & 0 & 1 & 1 & 0 \\ \text{仙} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{羽} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{伊} & 0 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

連結行列と可達

2回のフライトでの連結性

$$A_5^{(2)} = A_5 \otimes A_5$$

$$(A_5)^{(2)} = \begin{bmatrix} \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} \\ 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

0-1行列(復習)

和と積の定義が異なることに注意

和 論理和
積 論理積

【例 A.4】0-1 行列の演算

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \oplus \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \oplus 0 & 0 \oplus 1 \\ 1 \oplus 1 & 0 \oplus 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

$$\begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \otimes \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \otimes 0 \oplus 0 \otimes 1 & 1 \otimes 1 \oplus 0 \otimes 0 \\ 1 \otimes 0 \oplus 0 \otimes 1 & 1 \otimes 1 \oplus 0 \otimes 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

連結行列と可達

定義 7.6 連結行列

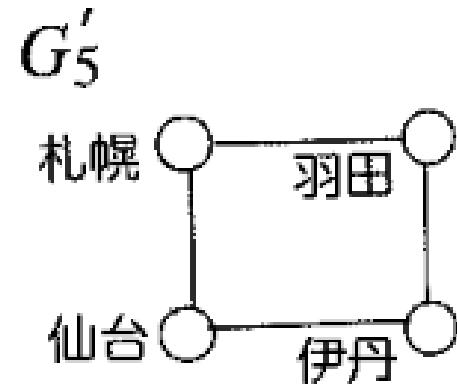
頂点の総数が n であるグラフ $G = (V, E)$ の隣接行列 A および $n \times n$ 型の単位行列 I から構成される次の $A^{(*)}$ を、 A の**連結行列**という。

$$A^{(*)} = I + A + A^{(2)} + A^{(3)} + \cdots + A^{(n-1)} \quad (7.1)$$

$$A_5^{(*)} = I + A_5 + A_5^{(2)} + A_5^{(3)} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$

連結行列と可達

$$A_5 = \begin{bmatrix} & \text{札} & \text{仙} & \text{羽} & \text{伊} \\ \text{札} & 0 & 1 & 1 & 0 \\ \text{仙} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{羽} & 1 & 0 & 0 & 1 \\ \text{伊} & 0 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$



$$A_5^{(*)} = I + A_5 + A_5^{(2)} + A_5^{(3)} = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \end{bmatrix}$$